

評議員会 議事録

日時：2001年7月14日(土) 11時00分～15時30分

場所：国立天文台 三鷹 講義室

出席者：石黒，井上，上野，岡村，加藤，高津，
小平，小山，佐藤（修），須藤，長谷川，福江，
福島，松田，吉田，渡部 以上16名

欠席者：家，池内，奥田，海部，木下，小杉，
佐藤（勝），鈴木，高原，谷口，中村，野本，林，観山 以上14名

有効委任状提出者：家，奥田，小杉，佐藤（勝），
鈴木，高原，谷口，中村，観山 以上9名。

他に理事会から田原理事長，唐牛副理事長，郷田理事，大石理事，松原理事，立松理事，東條事務長が出席。

議事に先立ち，議長に渡部潤一氏を，署名人に井上 一氏，長谷川哲夫氏を選出した。

1. 前回（2001年3月28日）の理事会議事録が郷田庶務理事より報告され，承認された。
2. 秋季以降の年会について

秋季以降の年会について，2001年7月7日に開催された理事会の結果に基づいて郷田庶務理事より以下のような説明があった。

(1) 2001年秋季年会

会場を無料で提供してくださる姫路市を年会の共催者に，また兵庫県を後援者とするのを理事会では承認した。さらに，教育フォーラム，公開講演会およびジュニアセッションに対しては，姫路市教育委員会，兵庫県教育委員会をともに後援者とするのを理事会で承認した。また，年会は講演会場の都合上，2箇所の建物を使って行う。今回の講演申込数は，概数で，口頭講演が310件，ポスター講演が200件あり，過去最大数である。従来の発表形態だと，講演時間は合計で90時間，また8会場が必要となってしまう。そこで，なるべくパラレルセッションを減らすために，口頭講演(a)の場合は口頭発表および質疑応答の時間を合わせて12分と従来より減らし，6会場で講演時間は合計70時間あまりにおさえたい旨の提案が年会実行委員会より提出され，理事会では了承した。

(2) 2002年春季年会について

開催地は水戸であり，年会日程は2002年3月28，29，30日，公開講演会が3月31日の予定である。また，公開講演会は茨城県立図書館で行われる予定。

(3) 2002年秋季年会について

開催地は宮崎であり，年会日程は2002年10月7，8，9日の予定である。また会場は，宮崎シーガイアコンベンションセンターの予定である。会場の新しい経営者の経営方針が9月に決定されるが，経営者が交代しても予算内での開催は可能であろうと山内年会開催地理事からは報告されている。また，公開講演会の会場は，宮崎銀行の会館または宮崎市民会館を候補としている。さらに公開講演会に対して宮崎科学技術会館を共催者，宮崎天文協会を公開講演会の後援者とするのを理事会では承認した。また，この年会においては，JTBが交通・ホテルの手配以外に，依頼すれば年会の登録，懇親会などの事前登録および登録料，懇親会費の事前徴収の作業を無料で行ってくれる旨の説明が理事会で山内年会開催地理事から行われた。さらに，ホテルと会場間のバスの手配，懇親会の準備など人数を事前に把握したいので，なるべく事前登録等を行いたい旨の提案があった。そこで意見交換を行った結果，どういう問題点が起こるのかを調査する意味も含めて，宮崎の年会で事前の登録・徴収を試しにやってみることに，詳細は，関係理事で検討を行っていく方針を理事会では決定した。

(4) 2003年春季以降の年会について

2003年春季年会については東北大学開催の内諾を得ており、現在の連絡担当者は土佐氏である。また、2003年秋季年会については、愛媛大学開催の内諾を得ており、粟木氏が連絡担当者である。さらに、2004年春季年会は、名古屋大学開催の内諾を得ることができ、連絡担当者は佐藤修二氏である。2004年秋季年会に関しては、国立天文台（水沢）を候補とし、現在交渉中である。

3. その他

(1) 郷田庶務理事より、2001年1月より現在までに天文学会に対して寄付をいただいた方々のリストの紹介があった。

(2) 学術用語集増訂について

田原理事長より、学術用語集増訂に対して天文学会がどう対応すべきか、7月7日の理事会で決定した事について以下のように説明がなされた。増訂版には、用語集の内容は流動的であること、また外来語のカタカナ表示に関しては柔軟な対応を望む事等を内容とした理事長からのメッセージを付ける。さらに、外来語のカタカナ表示については、場合によっては複数並記することを学会から文部科学省に対して要望することとなっている。また、大石庶務理事より学術用語集に関する補足説明があった。その後、以上の件に対して、意見交換を行い、文部科学省には要望をはっきり伝えることが必要である旨を確認した。

〈議題〉

1. 2002年度事業計画案について

郷田庶務理事より2002年度事業計画案について説明があった。また、事業計画のうち、本学会が共催し2002年7月開催予定のIAUアジア太平洋地域会議に対する旅費援助に関して、IAU京都総会記念基金の残額を全額、地域会議に支出することを理事会では承認済みである旨が大石庶務理事から報告された。質疑応答ののち、事業計画案を承認した。

2. 2002年度収支予算案について

松原会計理事より、2002年度収支予算案について説明があった。また、IAU京都総会記念基金の支出予定項目である来年開催予定のIAUアジア太平洋地域会議に関して地域会議のLOCである長谷川評議員より説明が行われた。さらに、大石庶務理事より、IAU京都総会記念基金の内規には、国際研究集会一件あたりの援助金額の上限は概ね100万円とするとあるが、地域会議への支出はその上限を上回る金額となる。しかし、それにとらわれずに、地域会議への支出を行いたい、その旨を評議員会で承認してもらいたいとの発言があった。議論ののち、この件に関しては承認を行った。また、収支予算案自体に関して質疑応答の後、原案を承認した。

3. 学会収支の改善に関して

学会収支の改善に関して資料をもとに松原会計理事より次のような説明があった。支出に関して様々な経費が高くなっているにも関わらず、会費収入がほとんど変わらないため、次期繰り越し収支差額が年々減少してきている。会員数を増やす等の対策が必要。9月に実務理事会を開き、10月の評議員会に対策案を提案する方針で臨むこととしている。これに対して、主として以下のような意見交換が行われた。

○学生の場合、年会で発表する場合は、旅費の援助も含めると非会員より会員になった方がはるかに得であることをもっと宣伝すべきである。

○正会員（学生）に対しては、会員として認められる期間に期限を設けて、期限が過ぎれば継続手続きをしない限りは自動的に退会とするのがよい。

○システムとして事務手続きがなるべく煩雑にならないよう考慮する必要はある。

○PASJは正会員（学生）には送付しないのが良い。

○PASJの電子版有料化を行い、印刷版を減らすのが良い。

- 電子版の運用の詳細に関しては、現在PASJ編集委員会で検討中である。
- 印刷版を減らすと刊行補助金が減額される問題点がある。
- 電子版に対しても補助金を支給するように学会から要求するべきである。
- 非会員の年会での登壇料をもっと高くし、なるべく会員になってもらうよう努めるのが良策である。

以上に関してさらに議論を行った結果、理事会の方で電子版に対しても補助金を支給するよう関係機関に働きかける必要があるとの意見が出た。また、正会員（学生）として認められる期間に期限を設ける案や非会員の登壇料の値上げ案を9月開催予定の実務理事会で検討してもらうこととした。

4. 「会費に関する細則」の変更について

継続審議事項であった会費の督促手数料の導入に関して、立松理事が理事会で承認された案の説明を行った。議論ののち、会費督促料を延滞料と直す、また当該会計年度が1月から12月までであることをあらわに書き込んでおく等の修正を行い、案を承認した。また、正会員（学生）会費についての案に関して立松理事から説明が行われた。議論ののち、当該会計年度が1月から12月であることを書き込んでおく等の修正を行い、案を承認した。さらに、これら2つの案に伴い会費に関する細則の変更を行う必要があり、変更案に関して立松会計理事から説明があった。議論ののち、細則の変更案を一部修正の上、承認した。また、この規則の運用は理事会で適切に対処し、もし今後問題が出てくれば評議員会に諮問するよう理事会に申し入れた。

5. 会費未納の場合の印刷物の送付に関して

会費未納の会員への天文月報、PASJ等の印刷物の送付に関して、議論を行った。その結果、当該会計年度開始（1月から開始）前までに会費を納めていない場合は、1月から印刷物の送付を停止することを決めた。また、会費を滞納していた期間の印刷物に関しては、会費を納入後は受け取る権利はあるが、会員自らの申し出がない限りはその印刷物を送付しないことに決定した。

6. 早川幸男基金内規変更について

早川基金内規一部変更について、早川基金選考委員長である須藤評議員より提案があった。まず、早川基金での渡航費支給内容に関して、従来は往復航空運賃相当額のみを支給しかできなかったが、もよりの国際空港までの国内旅費および空港使用料も含めることができるようにしたいとの変更の方針説明が須藤評議員より行われた。議論ののち、この方針に関しては承認した。これに伴い早川幸男基金内規の一部を下記のように変更することを議決した。

○第2条の2. 援助金額

目的地までの往復交通費相当額

またさらに、公募を学会誌以外に天文学会のホームページでも行っていることから、本内規の一部を変更する必要が指摘され、以下のように変更することが議決された。

○第2条の3. 援助対象者の公募

年数回、学会誌等に公募案内を掲載する。

7. 秋季通常総会議題について 秋季通常総会の議題に関しては、

- (1) 2002年事業計画案、
- (2) 2002年収支予算案、
- (3) 「会費に関する細則」変更の承認、
- (4) 新評議員の承認、
- (5) その他としたい旨の説明が郷田庶務理事より説明があり、承認した。

8. その他

(1) 新賞について

郷田庶務理事より、新賞の制定に関して理事会で検討した、もしくは検討中の事項の説明が以下のようであった。

(a) 継続審議事項となっている、天体発見以外の大きな貢献に対してアマチュア天文家に対して授与される新たな賞の制定に対しては、理事会より検討を依頼していた天体発見賞選考委員会より案が理事会に提出された。2001年7月7日の理事会で議論した結果、案では啓発活動も受賞対象とすることになっていたが、それは受賞対象には含めないこととした。それに伴い、内規案も変更する必要が生じ、今後関係理事等で検討し、10月の評議員会に提案する予定である。また、理事会では啓発活動については新しい賞をつくるならアマチュアに限定しないという結論になり、賞の制定に関しては理事会で今後検討することとなっている。

(b) 2001年1月27日の評議員会で理事会に検討を依頼された女性研究者のみを対象とした賞の制定に関しては、受賞対象者の数が少なすぎる等の問題点が2001年3月28日の理事会で議論され、結論として、この賞の制定に関する検討は理事会としては見送ることとした。

(c) (b)と同様に理事会に検討を依頼されていた院生、ポスドクのみを対象とした賞の制定に関しては、理事会での議論では賛否両論あったが、現在は研究奨励賞選考委員会に検討を依頼し、選考委員会で検討中である。

以上の説明を受けて、意見交換を行った。

(2) tennetの利用規程に関して

tennetの利用に関して、「非営利目的に限る」との決定が理事会でなされたことに対して福江議員が、理事会にその経緯説明などを要望した。これに対して、田原理事長、大石庶務理事が説明を行い、意見交換を行った。その結果、理事会側の意図は理解され、原則的には、非営利目的と規定すること自体は問題はなく、実際の運用は会員の良識に任せて弾力的に行うことが確認された。ただ、会員諸氏に理事会決定の真意が伝わっていない面もあるので、早急にアナウンスを出すことを理事会に申し入れた。

(3) 次回評議員会について

次回評議員会の予定を以下のように決定した。

2001年10月5日(金)

2001年8月17日

議長 渡部潤一
署名人 井上 一
署名人 長谷川哲夫

[天文学会ホームページに戻る](#)